

小学生向け教育支援プログラム

「テクノロジーを使って 地域の困りごとを解決しよう」 ご紹介資料

富士通株式会社 コミュニティ推進室

1. 学校教育を取り巻く課題認識.....	3
2. 富士通が教育支援活動を通じて目指すところ.....	4
3. 「テクノロジーを使って地域の困りごとを解決しよう」について.....	5
3-1. プログラムの流れ	
3-2. 使用教材について	
4. プログラム導入により期待される効果.....	12
5. 過去実績・参加者の声.....	13
6. プログラム実施までの流れ.....	14
7. 申し込み・問い合わせ先.....	15

1. 学校教育を取り巻く課題認識

教育環境の変化



デジタル社会への適応

急速に進展するデジタル社会において、子どもたちはテクノロジーとともに生きる未来を避けて通ることができない。そのため、将来の社会参画に向けて、早期からの体系的な情報教育の導入が不可欠



進化するAIとともに生きる力の育成

AI技術の進化が加速する現代において、AIを効果的に活用するためには、「社会課題を発見し、問いを立て、解決に導く力」といった人間ならではの力が、これまで以上に重要性を増している



地域とつながる探究学習への期待

地域を題材にした探究学習への期待は高い一方で、学校だけでは地域との接点づくりや学習機会の確保が難しく、外部との連携を求める声がある

教育現場の声



テクノロジー分野の教育体制

情報教育の重要性が今後ますます高まる中、テクノロジー分野の知見を求める声がある



従来の枠を超えた「開かれた学び」

学校の授業に加え、企業や地域社会と連携した学びは、子どもたちの学びをより深める機会となる。近年では、学校の枠を超えて社会とのつながりを実感できる学びを求める声も高まっている



教育現場における負担の増大

多様な学習機会の提供が進む一方で、授業の質にばらつきが生じやすくなり、教員の負担も増加している。特に変化の激しいテクノロジー分野においては、学校単独での対応には限界がある

2. 富士通が教育支援活動を通じて目指すところ

富士通は、テクノロジー企業として長年培ってきた知見を活かし、ICTと企業で重視される「課題起点」の思考を融合させた、実践的なプログラムを提供します。

子どもたちには探求的な学びの機会を、教職員には体系化されたプログラムによる業務負担の軽減を実現し、双方にとって持続可能で価値ある教育環境の創出を目指します。

「未来の社会とビジネスを支える“人材”を創出」

- ◆ 身近な社会課題をテーマにすることで、子どもたちは自ら問いを立て、解決へと導く力を育みます
- ◆ 富士通の事例を通じて、テクノロジーと社会の関わりを学び、興味・関心を高めます
- ◆ 企業の専門的な知見に触れることで、子どもたちの視野が広がり、社会に貢献する多様な仕事への理解とキャリア観を育みます

3. テクノロジーを使って地域の困りごとを解決しよう

全国の小学生を対象に富士通が実施する**探究学習型の教育支援プログラム**です。

対象 小学5～6年生

授業形態 オンライン（エリアによっては出前授業も承ります。個別にご相談ください。）

授業時間 3時限 ※1時限：45分間を想定（通常授業の時間割）

募集期間 通年 ※実施2か月前までに申し込みください

実施校数 制限なし

子どもたちが日常生活で見つけた「困りごと」に対して、テクノロジーを活用した解決策を考えます。主体的に考え、試行錯誤しながら解決策を見つけ出す過程を大切にしています。

＜本プログラムが提供するもの＞

- ・ 身の周りのテクノロジーについて学び、テクノロジーを身近に感じる機会の提供
- ・ 身の周りの出来事から地域の課題を見つけ出し、正しい問いを立てる力の育成
- ・ 自分で立てた問いに対して、解決する方法を考える力の育成
- ・ 子どもたち同士や周りの大人との会話による、意見の違いを知るきっかけづくり
- ・ 企業で働く大人と会話することで、さまざまな仕事があることを知るきっかけづくり

※本プログラムのコンテンツは、「一般社団法人プロフェッショナルをすべての学校に」と共同開発した教材を元に作成しております。 <https://progaku.com/>

また、ベネッセ社が提供するミライシード・オクリンプラス上でもご使用いただけます。 <https://bso.benesse.ne.jp/miraiseed/products/okulinkplus/index.html>

3-1. プログラムの流れ（全体像）

本プログラムは、3時限から構成されています。

1、2時限目は学校にて実施いただき、3時限目にオンラインで富士通社員とつながり、授業を行います。

ただし、2時限目の事前学習では、問いの設定やアイデア考案により時間をかけて取り組むなど、学校によって柔軟なカスタマイズが可能です。



1時限目 事前授業 (実施：学校)

身の周りのテクノロジーを見つけ
身近な困りごとを解決しよう

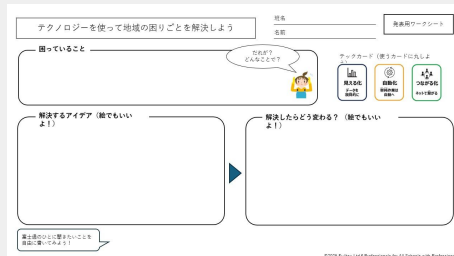
学校で事前授業を行い、身近なテクノロジーについて学習したり、テクノロジーを使って社会課題を解決した事例などを学習します



2時限目 グループワーク (実施：学校)

身近な課題についてテックカードを
使った解決アイデアを考えよう

事前学習で学んだことをもとに、地域の困りごとを見つけ、3つのテックカード（見える化・自動化・つながる化）を使って解決策を考えます



3時限目 アイデア発表 (実施：富士通社員 & 学校)

自分たちの考えたアイデアを
企業の講師に向けて発表しよう

オンライン授業にて、考えた解決アイデアを講師である富士通社員に発表し、コメントやアドバイスをもらいます





1時限目 事前授業（実施：学校）

学校で事前授業を行い、身近なテクノロジーについて学習したり、テクノロジーを使って社会課題を解決した事例などを学習します。

※使用する教材：②事前学習スライド（対象：先生） / ③個人用ワークシート（対象：児童）

内容
1. 身の周りのテクノロジーを見つけよう 最新テクノロジーを紹介（ドローン、ロボット、AI） ロボットは人の何を認識できるだろう？
2. 富士通の取り組み紹介 ロボット、AI コロナ禍でも活躍したスーパーコンピュータ「富岳」の紹介
3. テックカード 3つの機能の紹介 見える化・自動化・つながる化
4. テックカードを使った解決事例を学ぼう ウニ養殖の課題、漁業での課題



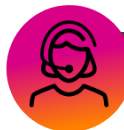
2時限目 グループワーク（実施：学校）

事前学習で学んだことをもとに、子どもたちが地域の困りごとを見つけ
3つのテックカード（見える化・自動化・つながる化）を使って解決策を考えます。

※使用する教材：ワークシート（発表用）（対象：児童）

内容
テックカードを使って地域課題の解決に挑戦しよう 1. 解決するテーマを設定しよう 2. テーマに関する困りごとを調査しよう ※困りごとの調査方法は、先生にお任せしております （例）身近な人にインタビューしよう これまでの経験を振り返ってみよう インターネットで調べ学習しよう 3. テックカードで解決案を考えよう

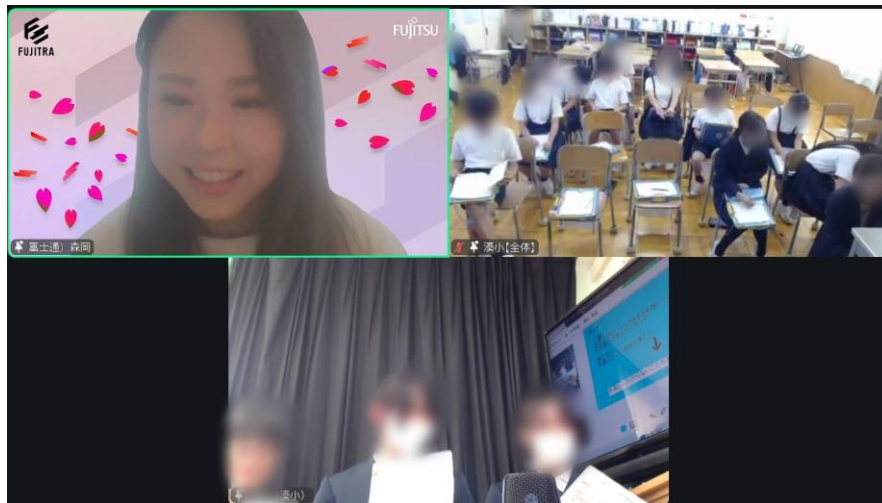
3-1. プログラムの流れ__3時限目 オンライン授業



3時限目 オンライン授業（実施：富士通社員＆学校）

子どもたちが考えた解決アイデアを講師である富士通社員に発表しコメントやアドバイスもらいます。

内容	時間(想定)
挨拶、講師自己紹介	5分
子どもたちの発表練習	5分
子どもたちの発表＆講師からのコメント	25分
質疑応答 講師から子どもたちに向けたメッセージ	10分
合計時間	45分



【オンライン授業風景】

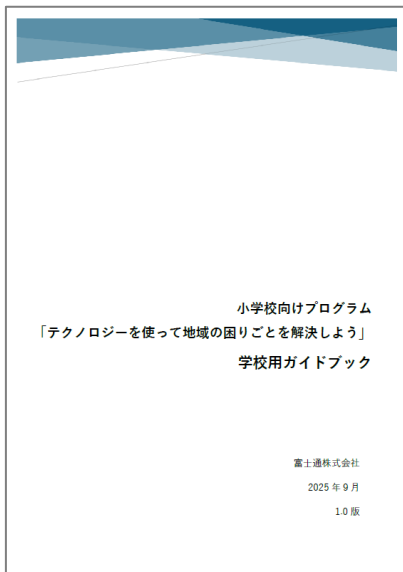
3-2. 使用教材について

以下の資料および教材を用いて、授業を進めていただきます。

①

【学校用ガイドブック】 (先生)

プログラム全体、事前授業の進め方



②

【事前学習スライド】 (先生)

1時限目で使用する教材スライド



③

【個人用ワークシート】 (児童)

1時限目の事前授業で使用

テクノロジーを使って地域の困りごとを解決しよう

名前 _____

名前 _____

チェックカード

見える化
データを視覚的に

自動化
単純作業は自動へ

つながる化
ネットで繋がる

事例① ウニの養殖の困りごと

ウニの養殖では、水質管理が重要な役割です。毎日朝晩も水質をチェックして記録しています。そのため管理がとても大変で、年間を通しての養殖は困難です。

どのチェックカードを使ってどのように解決したらいい？

事例② 漁業での困りごと

地元の漁業で獲れた魚は捨てられています。漁師ももったいないと思うながらも、思いがけずおいしい魚が、いつの間にか捨てられています。

どのチェックカードを使ってどのように解決したらいい？

④

【発表用ワークシート】 (児童)

2・3時限目の授業で使用

テクノロジーを使って地域の困りごとを解決しよう

発表用ワークシート

困っていること

解決するアイデア（誰でもいいよ！）

解決したらどう変わる？（誰でもいいよ！）

発表用ワークシート

(ご参考) ワークシートのテンプレート

個人用ワークシート

テクノロジーを使って地域の困りごとを解決しよう

班名 _____

名前 _____

発表用ワークシート

テックカード


見える化
データを視覚的に


自動化
単純作業は自動へ


つながる化
ネットで繋がる

事例① ユニの養殖の困りごと

ユニの養殖では、水温管理が重要なため、1日に何回も水温をチェックして調節しています。そのため管理がとても大変で、年間を通しての養殖は困難です。



どのテックカードを使ってどのように解決しただろうか？

事例② 漁業での困りごと

地元の漁港で売れ残った魚は捨てていました。漁師ももったいないなと思いつつも、思いながらも欲しい人がいるかどうか分かりません。



どのテックカードを使ってどのように解決しただろうか？

©2026 Fujitsu Ltd & Professionals for All Schools with Professionals

発表用ワークシート

テクノロジーを使って地域の困りごとを解決しよう

班名 _____

名前 _____

発表用ワークシート

困っていること _____

だれが？
どんなことで？



解決するアイデア（絵でもいいよ！）

解決したらどう変わる？（絵でもいいよ！）

テックカード（使うカードに丸しよ）


見える化
データを視覚的に


自動化
単純作業は自動へ


つながる化
ネットで繋がる

富士通のひとに聞きたいことを自由に書いてみよう！

©2026 Fujitsu Ltd & Professionals for All Schools with Professionals

FUJITSU PUBLIC

11

© 2026 Fujitsu Limited

4. プログラム導入により期待される効果

自己表現力の向上

(自分の考えやアイデアを言葉にし、他者に伝える力)

普段関わる機会の少ない、企業で働く大人との対話を通して、子どもたちが自分の意見を伝える自信を高めることを目指します。「働くこと」「将来」を考えるきっかけを提供し、自分の未来の選択肢を広げることを目指します。

課題解決思考の育成

(困っている人への共感を起点に、背景を考え、解決策を構想する力)

身近な地域の困りごとについて、「なぜその課題が起きているのか」「どうすれば解決できるのか」を考える機会を提供します。テクノロジーを活用したアイデアづくりを通じて、多様な視点から課題を捉え、自分なりの解決策を考える力を育みます。

地域課題の発見と理解

(身近な地域にある困りごとを自分事として捉える力)

地域にはさまざまな課題や困りごとがあることを知り、それらが自分たちの暮らしとどのようにつながっているのかを考えます。地域で暮らす人々の視点に立つことで、社会や地域への関心を高めます。

テクノロジーの理解

(人の幸せにつなげるためにテクノロジーを活用する視点)

普段は意識しにくい、身の回りで使われているテクノロジーを知ることから学びを始めます。テクノロジーが自分たちの生活や地域にどのように役立っているのかを理解し、関心を高めます。

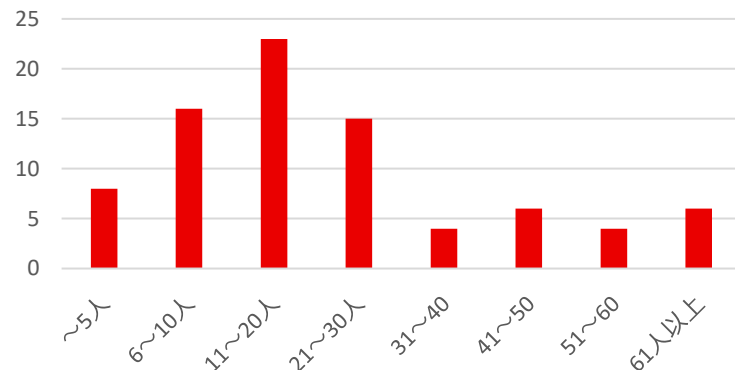
5. 過去実績と参加者の声

本プログラムは、2023年から実施しており、年々多くの学校様にご活用いただいています。
また、クラス規模や地域を問わず、日本全国で実施しております。

過去実績

年度	学校数	児童・生徒数
2023	8	80
2024	27	496
2025	47	1,393
合計	82	1,969

実施学校の規模



参加者の声



教師

教師が与えることができない、社会で必要な知識や経験を得ることができるプログラムだと思います。子どもたちの視野が広がったり、将来への期待感が高まると思いました。



児童

発表は緊張したけれど、大人のアイデアを聞けてとても勉強になりました。テクノロジーがこれからどのように進化をしていき、どのくらい人の役に立つか楽しみです。

6. プログラム実施までの流れ

プログラム実施希望日の約2カ月以上前にお申込みください。
お申込み後、富士通事務局とプログラム内容詳細や日程についてお打合せをします。

約2カ月以上前

約2カ月前

約1～4週間前

前日まで

当日

学校様

問い合わせ・申し込み



・WEBフォームより候補日を入力の上申し込み

富士通事務局と 打合せ



・オンライン打合せにて内容と実施日を確認

学校様にて 事前授業実施



・提供教材を使用して学校様で事前授業を実施

テスト通信



・富士通事務局とテスト通信を行い、授業本番の流れを最終確認

プログラム 本番



・社員講師がオンライン授業を実施

7. 申し込み・問い合わせ先

本プログラムへのお申し込み、お問い合わせにつきましては、以下のURLからご登録をお願いします。
別途、事務局よりご連絡させていただきます。

富士通株式会社 教育支援プログラム事務局

[富士通株式会社の教育支援プログラム_問い合わせ・申し込みフォーム](#)

QRコードはこちら→



Thank you

